

# 「活動報告（平成十二年）」

## 一、戦史関連研究会

### ◇戦史研究発表会◇

平成十二年七月五日

防衛研究所大講堂及び大会議室

研究発表

「日本海軍の対英観の再検討」

戦史部主任研究官

相澤

淳

「国防国策に見る陸海軍の対立」

戦史部主任研究官

黒野

耐

「絶対国防圏下における日本陸海軍の統合」

戦史部所員

屋代

宜昭

「日清戦争開戦前後の帝国陸海軍の情勢判断と情報活動」

戦史部所員

五十嵐

憲一郎

「日本陸軍の第一次世界大戦史研究と用兵思想への反映」

戦史部所員

葛原

和三

「『軍事革命』の歴史について」

戦史部主任研究官

石津

朋之

特別講演

「日本として知っておかねばならぬこと」

作家

上坂

冬子

### ◇客員所員研究会◇

李 鐘學 徐羅伐（ソラブル） 軍事研究所所長

平成十二年一月二十五日

「日本の西洋軍事理論受容に関して」

平成十二年一月二十六日

「太平洋戦争史観」

平成十二年一月二十七日

「朝鮮戦争史観」

ウィリアムソン・マーレー オハイオ州立大学名誉教授

平成十二年二月四日

「ヨーロッパにおける戦争の起源 一九二〇～一九三九」

平成十二年二月七日

「戦間期米英独における戦略爆撃構想の発展」

平成十二年二月八日

「戦後米空軍の発展 一九四五～一九九九」

「歴史から見たRMAのパターン」

アラン・ミレット オハイオ州立大学教授

平成十二年九月五日

「米国流の戦争方法」

「日本国防政策史」

(戦史部主任研究官 黒野 耐)

平成十二年九月六日

「米国側から見た太平洋戦争」

「日本側から見た太平洋戦争」

(上智大学教授 高橋 久志)

平成十二年九月八日

「朝鮮戦争」

「朝鮮戦争と日本」

(慶應義塾大学教授 赤木 完爾)

クリストファー・コーカー ロンドン大学教授

平成十二年十一月十日

「二〇世紀の戦争と平和」

「二〇世紀東アジアの戦争」

(戦史部主任研究官 立川 京一)

平成十二年十一月十三日

「非対称戦争」

コメント (戦史部主任研究官 山村 健)

平成十二年十一月十四日

「ポスト・モダン戦争」

コメント (桜美林大学教授 加藤 朗)

◇各種研究会◇

平成十二年二月二十一日

「日本陸軍と第一次世界大戦」

戦史研究家 桑田 悦

平成十二年二月二十五日

「西浦進と戦史研究序説」

戦史研究家 近藤 新治

平成十二年三月七日

「プロイセン軍事思想の変遷について」

戦史研究家 片岡 徹也

平成十二年三月十日

「クラウゼヴィッツと日本陸軍」

戦史研究家 前原 透

平成十二年三月二十四日

「佐藤鉄太郎を巡る人間模様―日露戦争における海戦批判―」

戦史研究家 石川 泰志

平成十二年四月十九日

「史料調査について」

戦史研究家 有賀 傳

平成十二年五月十九日

「関東軍」

軍事史研究家 中山 隆志

平成十二年七月十一日

「日米関係の歴史と展望」

上智大学名誉教授 嶋山 道雄

平成十二年七月十七日

「アメリカ戦時経済史―第二次大戦期を中心に―」

武蔵大学教授 河村 哲二

平成十二年九月十三日

「二〇世紀における総力戦の概念」

ロンドン大学教授 ブライアン・ボンド

平成十二年十月五日

「山本五十六の観点からの太平洋戦争」

愛知工業大学客員教授 野村 実

平成十二年十月十八日

「日中戦争における中国軍に対するドイツの影響」

フライブルク大学教授 ベルント・マーチン

平成十二年十一月二十九日

「日本の戦時経済―経済史と軍事史の視点から総括的に論ずる―」

東京都立大学教授 山崎 志郎

◇戦史現地研究◇

長岡地区（山本五十六記念館、戊辰之役の史跡等）

平成十二年十月十二日～十三日 戦史部長以下一三名参加

二、戦史資料の閲覧

防衛研究所は、旧陸海軍関係の公文書非公文書及びその他戦史関係の出版物並びにそれらの複製物（以下「史資料」という）を、平日九時から十六時三十分まで、図書館史料閲覧室において一般に公開している。

調査研究のため閲覧を希望する者は、所定の手続きをとって誰でも閲覧することができる。

本年（平成十二年）の閲覧者総数は、五三七八名であった。月別閲覧者数は左表の通りである。

月	閲覧者数	月	閲覧者数	月	閲覧者数
一	三五八	七	四五五	十	四〇三
二	四三五	八	五六八	十一	四三七
三	五一九	九	五〇一	十二	四〇一
四	四一七				
五	四一一				
六	四七三				

三、レファレンス

防衛研究所は、図書館史料閲覧室史料専門官、戦史部レファレンス担当官を窓口として、史資料の検索、特定史資料の内容に関する情報提供、史資料に関する参考文献及び専門的調査期間等に関する情報提供を行っている。

レファレンス件数は、年々増加の傾向を示しており、本活動に対する礼状等も国内外から寄せられている。

昨年(平成十二年)のレファレンス統計は、左記の通りである。

(一) 要求件数

総件数は、一八二四件であった。月別件数は左表の通りである。

要求件数	月	要求件数	月	要求件数	月	要求件数	月
一四八	十	一四一	七	一四〇	四	一五七	一
一二八	十一	一八八	八	一五四	五	一八八	二
一一九	十二	一四三	九	一五三	六	一六五	三

(二) 要求者の職業

要求件数	職業	要求件数	職業	要求件数	職業	要求件数	職業
五八一	部外一般	二八〇	報道等	一六〇	大学等	二四四	防衛庁
		一三三	外国人	一四	図書館	一一一	他官庁
		二四	議員	五六	研究家	二二一	旧軍





(五) 陸海軍別

	陸軍	海軍	共通	その他
要求件数	七六八	四七八	一五五	四二三

(六) 要求・回答手段

要求手段	電話	文書	直接	FAX
要求件数	九一〇	三一〇	五四〇	六四

回答手段	電話	文書	直接	FAX
回答件数	八四四	三八一	五二六	七三

(七) 回答時間(四月から十二月まで)

回答時間	一時間以内	二時間以内	三時間以内
件数	七九七	三一五	一〇四
回答時間	四時間以内	五時間以内	十時間以内
件数	二一九	二二七	二二五
回答時間	十五時間以内	二十四時間以内	二十四時間以上
件数	七	七	三

四、見学者

平成十二年に当図書館史料庫を見学した主な見学者は、左記の通りである。

- 一月二十八日 徳山明常葉学園富士短期大学学長
- 二月八日 国際戦略研究所(アメリカ)一行二名
- 五月二十三日 総理府アジア歴史資料センター開設準備室一行三名
- 六月十五日 財団法人国際教育情報センター一行一〇名
- 六月二十七日 ジョニー・ルミタン・インドネシア国軍防衛研究所長
- 六月三十日 東京女子大学現代文化学部学生一行一三名
- 七月十三日 上智大学文学部学生一行一八名
- 七月十四日 防衛大学校総合安全保障研究科学生一行一七名
- 九月二十九日 玉川大学文学部学生一行一〇名
- 十一月七日 千葉県史料保存活用連絡協議会一行三八名

(吉川秀明、河合正廣、相澤淳)